



令和元年度
姉妹都市パサデナ市派遣
秦野市青少年訪問団・教職員海外派遣研修訪問団
訪問の記録



令和2年1月6日(月)～12日(日) 5泊7日

主催：秦野市、秦野市教育委員会

主管：秦野パサデナ友好協会、
パサデナ姉妹校教員派遣研修実行委員会

INDEX

1	訪問団名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	P1
2	日 程・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
3	事前研修・結団式・・・・・・・・	P3~4
4	見学地の概要	
	《1》 公的機関・・・・・・・・	P5~6
	《2》 学 校・・・・・・・・	P6~8
	《3》 観光地・・・・・・・・	P9~10
5	ホームステイ	
	《1》 青少年及び友好協会・・・・・・・・	P10~12
	《2》 教職員・・・・・・・・	P13
6	訪問記録	
	《1日目》 1日6日（月）・・・・・・・・	P14~15
	《2日目》 1日7日（火）・・・・・・・・	P16~17
	《3日目》 1日8日（水）・・・・・・・・	P17~18
	《4日目》 1日9日（木）・・・・・・・・	P19~20
	《5日目》 1日10日（金）・・・・・・・・	P21~22
7	報告会・・・・・・・・	P23
8	感想文	
	《1》 青少年訪問団・・・・・・・・	P24~33
	《2》 教職員海外派遣研修訪問団・・・・・・・・	P34

1 訪問団名簿

青少年訪問団

	No.	名前	性別	所 属 など
高校生	1	かとう ゆう 加藤 優	女	日本大学藤沢高等学校 3年
	2	やながわ し の 柳川 詩乃	女	神奈川県立小田原高等学校 2年
	3	さきもと れ お 笹元 玲良	男	神奈川県立小田原高等学校 2年
	4	さ さ き ゆ り 佐々木 優理	女	神奈川県立弥栄高等学校 1年
中学生	5	あまの ち ゆ 天野 千優	女	秦野市立南中学校 1年
	6	こいけだ ふ ゆ の 小池田 冬乃	女	秦野市立北中学校 3年
協会	7	あいはら けいこ 相原 啓子	女	秦野パサデナ友好協会
	8	おおくさ じゅんいち 大草 淳一	男	秦野パサデナ友好協会
随行	9	はら のりお 原 徳郎	男	文化スポーツ部文化振興課
	10	ふくしま ひろし 福島 宏	男	文化スポーツ部文化振興課

教職員海外派遣研修訪問団

教諭	11	かとう あつ し 加藤 敦視	男	秦野市立大根小学校
随行	12	なとり いさお 名取 功	男	教育部教育指導課

2 日 程

日(曜日)	時間	行動内容	宿泊
1月6日 (月)	5:50	秦野市役所出発	機内泊
	10:55	成田空港出発(NH174)	
	7:50	ジョージ・ブッシュ国際空港到着	Fairfield Inn & Suites Marriott
	9:00	パサデナ姉妹都市協会の会員による出迎え、空港出発	
	10:00	ホテル到着、チェックイン	
	13:00	スパークス小学校訪問	
	14:00	サンジャシント記念塔見学	
	17:15	Welcome Party、ホストファミリーと対面(ホテル内)	
1月7日 (火)	8:30	警察署見学	ホームステイ
	9:30	パサデナ市役所訪問 (市長表敬訪問・市議会議場でプレゼンテーション)	
	13:00	サンジャシント短期大学見学	
	14:30	消防署見学	
1月8日 (水)	9:00	ショッピング(Buc-ee's)	ホームステイ
	10:00	NASA 見学	
	14:00	ショッピング(Walmart 他)	
1月9日 (木)	8:15	キャリア&テクニカル高等学校見学	ホームステイ
	10:00	テーク小学校訪問	
	13:00	海洋技術訓練センター見学	
1月10日 (金)	8:30	トンプソン中学校訪問	Fairfield Inn & Suites Marriott
	11:30	ドビー高等学校見学(高校生2~3年生)	
	14:00	クラレ・アメリカ見学(大人)	
	17:30	サヨナラ・パーティー	
1月11日 (土)	7:15	ホテル出発	機内泊
	11:00	ジョージ・ブッシュ国際空港出発(NH173)	
1月12日 (日)	16:00	成田空港到着	
	17:30	成田空港出発	
	20:15	秦野市役所到着	

3 事前研修・結団式

(1) 第1回事前研修（「スカイプ・キャンプ」プレ研修）

日 時：令和元年10月19日（土）午前9時30分～正午

場 所：保健福祉センター第2会議室及び第4会議室

内 容：グルーピング、テストスカイプ、質問事項の検討・作成



講師 青木アイリーン先生による指導



タイ人の東海大学留学生もサポート役として参加

(2) 第2回事前研修（スカイプ・キャンプ）

日 時：令和元年10月25日（金）午後8時～26日（土）午前9時

場 所：表丹沢野外活動センター

内 容：トンプソン中学校の生徒とのスカイプ交流



英語で挨拶する青少年訪問団員



トンプソン中学校の生徒からは演奏のサプライズが！

(3) 第3回事前研修（英会話研修）

日 時：令和元年11月23日（土・祝）

午前10時～正午

場 所：秦野市役所教育庁舎大会議室

内 容：自己紹介、英語のアウトプットの練習



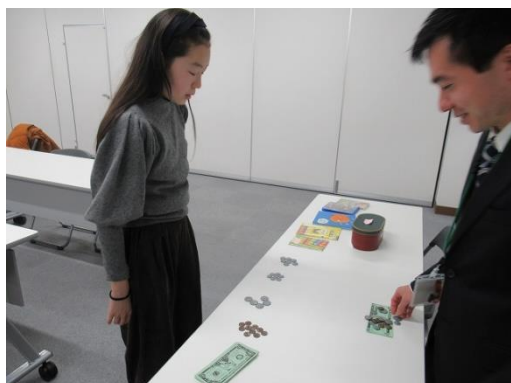
英語で自己紹介する訪問団員

(4) 第4回事前研修（英会話研修）

日 時：令和元年12月7日（土）午後1時30分～3時20分

場 所：秦野市役所教育庁舎大会議室

内 容：入国審査の練習、お金のやりとり、英会話すごろく



アメリカドルのやりとりを練習



すごろくで親睦を深めながら
英語を学ぶ訪問団員

(5) 結団式

日 時：令和元年12月26日（木）午前10時～11時

場 所：秦野市役所本庁舎議会第1会議室

内 容：訪問団員紹介、団長挨拶、高橋市長挨拶、
秦野パサデナ友好協会 六本木会長激励挨拶、親書受渡し



高橋市長から親書を託された大草団長



最後に全員で集合写真

4 見学地の概要

《 1 》 公的機関

① パサデナ市役所 (PASADENA CITY HALL)

市庁舎は、日本のように高さはなく、広大な敷地に平屋造りの建物が点在しています。市庁舎の隣には、DVDの貸出や古本屋まで備えた図書館や警察署などがあります。

今回の訪問では、ジェフ・ワグナー市長をはじめ、市職員、市議会議員、警察官など、たくさんの方々が迎えてくれました。



② パサデナ独立学校区 (PASADENA INDEPENDENT SCHOOL DISTRICT)

小中学校、高校などの教育行政は、市役所とは独立した組織である「パサデナ独立学校区」が管轄しており、その長としてスーパーインテendent（教育長）がいます。

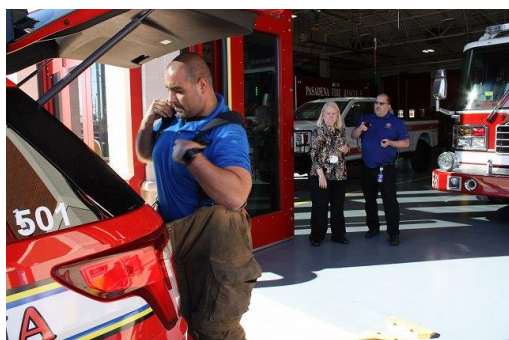
パサデナ独立学校区は、1896年にたった一つの教室しか無い学校から始まり、現在では7,200名の職員、新設された職業訓練高校を含めた全63校に54,000名の生徒が在籍するほどに発展しました。公立の学校数は、Elementary School（日本の小学1～4年）が36校、Middle School（小学5・6年）が11校、Intermediate School（中学1・2年）が10校、High School（中学3年～高校3年）が6校あります。高校まで義務教育であるため、学費は無料です。

今回の訪問では、ディアン・パウエル教育長に代わり出席されたアリータ・ハロルド教育長代理に記念品を贈呈した後、質疑に應じてもらいました。



③パサデナ消防署 (PASADENA FIRE STATION)

パサデナ市では、年間約2万件の火事や救急の通報が入りますが、対応する多くの消防士は、他に仕事を持つボランティアで構成されています。市内八つの消防署には、主な設備として、消防車の他、ポンプ車2台、救急車5台、給水車1台などが配備されています。



今回の訪問では、2017年8月に大型ハリケーン・ハービーに町が襲われた際に消防士が寝泊まりしていた部屋などを見せてもらいました。消防車の乗車体験や消防服の試着をさせてもらっている最中、突然火事の連絡が入り、隊員たちは緊張した面持ちで現場へ急行して行きました。

《2》学 校

① テーグ小学校 (TEAGUE ELEMENTARY SCHOOL)

日本の小学1～4年生に当たる年齢の児童が通う公立小学校。秦野市立本町小学校と1984年に姉妹校提携を結んでおり、その証として本町小学校から贈られた記念品が展示されています。

校内にはキンダーガーデン（6歳児）の教室もあり、英語とスペイン語の母国語の違い



によってクラスは分かれており、幼少期からパソコンに触れる教育が施されていることも特徴です。

今回の訪問では、体育の授業に参加してもらい、身体を動かすゲームで大盛り上がりしました。

② スパークス小学校（SPARKS ELEMENTARY SCHOOL）



日本の小学１～４年生に当たる年齢の児童が通う公立小学校。秦野市立西小学校と１９８７年に姉妹校提携を結んでいます。入口を入って間もなく、廊下に飾られたきれいなクリスマスのイルミネーションが訪問団一行を歓迎してくれました。

全ての職員が児童一人ひとりの成長過程や学習状況を把握するとともに、教室には児童のニーズに合わせた椅子や机が置かれるなど、児童を第一に考えた工夫が随所に見られました。



③ トンプソン中学校（THOMPSON INTERMEDIATE SCHOOL）

日本の中学１～２年生に当たる年齢の生徒が通う公立中学校で、約１，０００名の生徒が在籍しています。

沢山の課外授業（クラブ活動）があり、生徒は複数のクラブに参加することができます。中でもオーケストラなどの音楽クラブは、テキサス州内で数多くの賞を獲得する活躍を見せています。



２００９年に秦野市立渋沢中学校と姉妹校提携を結んでおり、２０１４年からはHadano Clubの生徒を中心にSkypeを使った交流も行っています。

今回の訪問では、青少年３名がトンプソン中学校の生徒と一緒に授業に参加させてもらい、貴重な体験をしました。

④ キャリア&テクニカル高等学校 (CAREER&TECHNICAL HIGH SCHOOL)

日本の中学3年～高校3年生に当たる年齢の生徒が、就職に必要な知識や技術を学ぶ高等学校。この学校に通う生徒は、農業、商業、保健衛生、建設、土木技術、運送の六つの専門領域の中から、学びたい領域を選択します。



授業の内容には、インターンシップなど実際の職場を体験することができるプログラムも組み込まれています。サンジャシント短期大学との協働プログラムにより、大学の単位を取得することもできます。

今回の訪問では、2グループに分かれて、授業や実習で利用されている教室や施設を案内していただきました。

⑤ サンジャシント短期大学 (San Jacinto College)



パサデナ市と隣町のヒューストン市のキャンパスで約30,000名の学生が学ぶ、1961年創立のコミュニティーカレッジ。オランダの石油化学メーカーや日本の光学機器・電子機器メーカーなどと産学連携の取組も多数行っています。

また、トリニティ湾に面した海洋技術訓練センターは、米国沿岸警備隊公認の施設で、巨大シミュレーターを使った船の操縦や実地での訓練を積むことができます。そうした多彩なプログラムを数多く取り揃えていることなどが高く評価され、2019年には全米でもトップ10のコミュニティーカレッジに選ばれました。



《 3 》観光地

①サンジャシント記念塔（THE SAN JACINTO MONUMENT）

1939年に、テキサス独立戦争で亡くなった全ての兵士を追悼するために建てられた記念塔。高さは174メートルあり、世界で最も高い柱型の石造建築とされています。

コンクリートと石灰岩でできた巨大な塔の頂には、テキサス州を象徴する「ロースター（一つ星）」が飾られ、塔の台座部分には、独立戦争前後のテキサスの重要な歴史に関する記述が刻まれています。高さ152メートル地点にある展望台には、エレベーターで登ることができ、ヒューストンの風景を一望できます。

また、隣接するサンジャシント州立公園には、第1次世界大戦や第2次世界大戦に参戦した戦艦テキサス（BATTLESHIP TEXAS）が、博物館を兼ねた記念艦として静態保存されています。



②ジョンソン宇宙センター（JOHNSON SPACE CENTER）

ヒューストン市内にあるアメリカ航空宇宙局（NASA）の宇宙センターです。全米に10施設あるNASAのフィールドセンターの一つです。

元は、有人宇宙センター（MANNED SPACECRAFT CENTER）と呼ばれていましたが、1973年に、テキサス州出身の元アメリカ合衆国大統領である、故リンドン・B・ジョンソンに敬意を表し、現在の名称に改名されました。



ア スペースセンター・ヒューストン（SPACE CENTER HOUSTON）

見学者が最初に入場する施設です。館内には、子どもから大人まで楽しむことができる、宇宙関連のアトラクションや体験資料、土産店などが設置されています。

この場所を出発地点として、敷地内の施設をトラムで巡る見学ツアーが用意されています。今回は、現役のNASA職員として活躍する、通訳の方



にも詳しく案内してもらいました。

イ アポロミッション・コントロールセンター (APOLLO MISSION CONTROL CENTER)

アポロ11号による人類初の月面着陸の指揮が執られた管制室。米国国定歴史建造物に指定されています。2019年7月20日、月面着陸から50周年を記念し、完全復元・公開されました。

当時、他部署との手紙のやり取りに、長く伸びた透明な筒が使われていましたが、中にはコーラのボトルを入れる職員もいたそうです。

見学ツアーでは、管制室を背面から覗くことができます。



5 ホームステイ

《1》青少年、友好協会

①加藤優 & 天野千優

【ステイ先】Garcia 家



加藤優さん（高3）



ガルシア家の皆さんはとても親切で、1日目からまるで自分の家にいるかのような居心地のよさでした。色々な場所へ連れて行ってくれ、お互いについて沢山話すことができました。いつかまた会いに行きたいです。

私たちを受け入れてくれたファミリーは、心から優しく「おもてなし」をしてくださいました。癒された事は2歳の男の子と可愛い犬でした。その子と犬ともたくさん遊べました。ショッピングやアイススケートへも連れて行ってくださり、素敵なネックレスまでいただきました。さらに、私たちが滞在中に体験した思い出の写真をプリントしてくださいました。とても素敵な思い出になりました。何よりも、アメリカの人々とたくさん話し、笑い会えた事は、とても良い経験になりました。



天野千優さん（中1）

②相原啓子 & 柳川詩乃

【ステイ先】 Nicol 家



相原啓子さん（友好協会）

ニコルさんは、11歳と3歳の息子さんがいる方で、子育てが忙しい中ホストファミリーとして私たちを歓迎してくれました。最新版のウノで女性3人が盛り上がり、時間も忘れて楽しいひと時を過ごしました。

最初は緊張していましたが、ホストマザーが沢山話しかけてくれて、私の話をゆっくり聞いてくれたので会話を楽しむことができました。子供達にルームツアーをしてもらい、一緒にLEGOを作ったり犬と遊んだりして過ごしました。



柳川詩乃さん（高2）

③佐々木優理 & 小池田冬乃

【ステイ先】 Mendez 家



佐々木優理さん（高1）

最初は不安だったのですが、とても暖かく迎え入れてくれて楽しく過ごすことができました。パサデナの日常生活が体験できたことやホストファミリーとたくさん会話できて嬉しかったです。また、パサデナに行きたいです。

小池田冬乃さん（中3）

渡米前は不安がありましたが、事前にメールを送った時「不安があるのは普通のこと、心配なくていいよ」と返事をくれました。滞在中も Mari と Will の優しい心遣いのおかげで本当に楽しい時間を過ごすことができました。



④大草淳一【ステイ先】Cowart 家



大草淳一さん（友好協会）



ケビンさんのご家庭は、奥様と二人の娘さんの4人家族。お子さんが小さいので大変そうでしたが、たくさんお話したり遊んだりしました。ケビンさんとは毎朝いろんな国のおいしい朝食を紹介してもらいました。

⑤笹元玲良【ステイ先】Cortese 家



笹元玲良くん（高2）



出発する数日前に一人でホームステイすることが決まり緊張していましたが、とても優しいホストファミリーで初日から楽しく過ごせました。初日はクーパーくんのラクロスの練習を見た後、メキシコ料理店でキャサディアというものを食べましたが、とてもおいしかったです。

2日目はショッピングモールへ行きタピオカと洋服を買い、ゲームショップをのぞきました。その日の夕食は、日本料理店でうどんを食べました。ホストファミリーがみんな箸を使っていたのに驚きました。夜はクーパーちゃんとゲーム（PS4）をして遊びました。

3日目は前市長などの家にみんなで集まりホームパーティーに参加しました。

3日間だけでしたが、いろいろお話して、たくさんの思い出ができました。

またいつか会いに行きたいです。

《2》教職員

加藤敦視 & 名取功

【ステイ先】 Arnold 家



加藤敦視先生（大根小）

アメリカでの生活や日常的な会話を体験的に学べたことは大きな財産だと思っています。

また、現地のアメリカ人と交流を持ち、パサデナでの暮らしや疑問に思ったこと、パサデナの方言などについて会話できたことがうれしく思います。

しかし会話を続けることが難しく自分の理解力や返し方など一方通行になってしまうことがあったので、これから学習して幅を広げていきたいです。



名取功先生（教育指導課）

テリー・キャロル夫妻には、大変お世話になりました。

滞在させていただいた部屋は、高級ホテルのようで大変素晴らしく、AIスピーカーや自動ガレージシャッター等ハイテク機器が揃っており、とても進んでいるなと感心させられました。

また、日々の充実した活動の他、毎晩、日本人の私には想像を遥かに超えるサプライズを用意していただき、全てが思い出深く心に残っています。

ゲイル会長をはじめ、パサデナの皆さんはとても温かくフレンドリーで、ぜひまたお会いできればと思います。本当にありがとうございました。

6 訪問記録

《1日目》1月6日（月）

午前5時40分、団員12名全員が秦野市役所西庁舎1階ロビーに集合しました。見送りには、団員の家族や学校職員、秦野パサデナ友好協会の皆さんなど、大勢の方が来てくれました。秦野パサデナ友好協会 六本木会長からは、「市の代表として訪問することを忘れず心得ること。そして、安心・安全に気を付け、楽しんでください。」など、激励の言葉をいただきました。たくさんの人に見送られ、大きな期待と少しの不安を胸に出発しました。

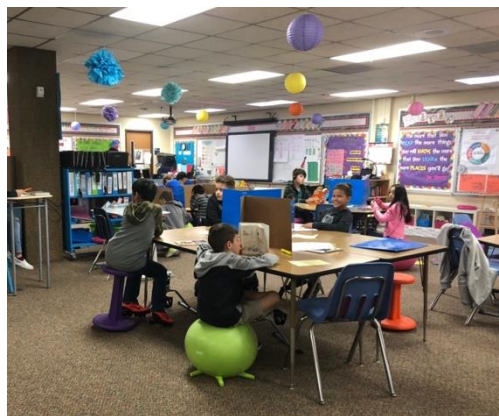


成田空港へと向かうバスの中では、早朝ということもあり、訪問団のほとんどが寝ていましたが、その中で一人、笹元くんが勉強をしていることにみんなが驚きました。空港に到着し、搭乗手続を済ませた後、みんなで朝ご飯を食べました。そして午前10時50分、私たちが乗る全日空174便は成田空港を離陸しました。飛行機の中では睡眠も取りつつ、最新の映画やドラマ、おいしい機内食を楽しみました。約12時間のフライトを経て、現地時間の午前7時30分頃、遂にジョージ・ブッシュ国際空港に到着しました。無事入国審査を通過し、到着ゲートを過ぎると、パサデナ姉妹都市協会の方々が Welcome to Pasadena!!と書いてある横断幕を持って、笑顔で迎えてくれました。



姉妹都市協会が手配してくれた車に乗り込み、パサデナ市へ向かいました。ホテルに到着して、荷物を置いた後、Dairy Queen というハンバーガーとソフトクリームの店へランチに行きました。ポテトは量が多く、ハンバーガーはビッグサイズでした。また、ソフトクリーム作りに挑戦した団員もいました。

一息ついた後、スパークス小学校を訪問しました。私たちの訪問のために、クリスマスの飾り付けを残しておいてくれました。廊下が可愛らしい電飾でいっぱい子供たちが作ったオーナメ



ントなども飾ってありました。学校全体でイベントを祝うというのは日本にはあまりないので、羨ましかったです。教室には、一人ずつ使えるコンピューターやバランスボールの椅子、フラフープまでもが置かれていました。このバランスボールの椅子は、動き回ってしまう生徒が授業で使うためのものでした。そんな発想があるのか、と感動しました。また、パサデナの学校は朝が早く、学校で朝食をとるそうです。これなら規則正しい生活ができそうだと思います。

その後は、サンジャシント記念塔に行きました。高さは174メートルもあり、テキサス独立戦争で亡くなった兵士の栄誉を称えるために建てられました。塔の頂上にはテキサス州を象徴する「ロースター」というひとつ星が飾られています。このロースターだけで、高さ10メートル、重さ220トンもあります。



夕方ホテルに戻ってからは、ウェルカムパーティーが始まりました。ホストファミリーたちが集まってくれて、一緒に食事をしました。どんな人だろうと緊張していましたが、家族の写真を見せてくれたり、冗談を言って笑わせてくれたりしました。「そんなに気を張らなくても大丈夫」と言われ安心できました。フライト時間が長かったこともあり、気遣ってくれました。パーティーでは、名取先生の誕生日もお祝いしました。とても大きくてすごい色をしたケーキをみて、アメリカだなと思いました。パサデナで初めて食べたケーキはびっくりするほど甘かったです。一日目から予定が盛りだくさんでした。

【加藤（優）・柳川】



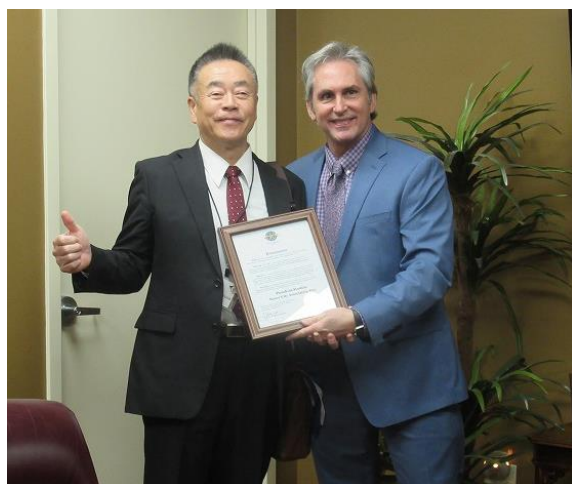
《2日目》1月7日（火）



2日目は、警察署の見学から始まりました。警察官の方々のおもてなしは、とても素晴らしかったです。入口のドアの前で整列して待っていて、私たちにワッペンを配ってくれました。大柄でがっちりした警察官もいましたが、みんな優しかったです。また、女性の警察官も少なくなかったです。みんな必ず腰の自分にも相手にも

見えるところに銃をつけていました。一番印象的だったものは、管理室のような部屋です。そこには、パサデナ市内にある防犯カメラの映像が大きなスクリーンに映し出されていて、カッコいいなと感じました。

次に、パサデナ市役所に行きました。そこで初めてワグナー市長にお会いしました。市長から大草団長にこの訪問を記念し、「2020年1月7日をパサデナ市と秦野市の姉妹都市記念日とする。」と書かれた宣言書が贈られました。また、近々パサデナ市内に日本庭園風の公園が建設されるというお話もありました。その後、議場へ移動しました。議場では、一般市民が小規模ビジネスのための環境整備などについて陳情する様子を見学した後、私たち一人ひとりが、パサデナで学びたいことや体験してみたいことをみんなの前で話しました。正直、かなり緊張しました。



市役所訪問の後は、サンジャシント短期大学に移動し、そこでおいしいランチをいただきました。Dr. Brenda Hellyer 学長自らが出迎えてくれ、カリキュラムの概要や学生の卒業後の進路などについて話してくれました。お腹いっぱいになった後、学内を見学させてもらいました。パサデナ市は近隣に国際空港や大きな港があることから、日本の大手企業

も数多く進出しています。サンジャシント短期大学では、そうした企業などとの産学

連携の取組が進められおり、企業から提供される機材や施設を活用した実習の様子を見ることができました。特に、各研究室での安全管理が徹底している点に感銘を受けました。

この日最後の訪問は、消防署でした。パサデナ市には消防署が8か所あり、署長以外のほとんどがボランティアとして働いていると聞きました。海外ではボランティア活動が積極的に行われている印象がありましたが、人命にかかわる仕事でも、多くの人が参加している事実に変な驚かされました。消防署内の見学では、実際に大きな消防車に乗車させてもらったり、消防服の試着をさせてもらいました。

【笹元・天野】



《3日目》1月8日（水）

この日は、高速道路のサービスエリアにあるBuc-ee'sでのショッピングからスタートしました。駐車場に入っすぐ、たくさんの無人ガソリンスタンドがありました。Buc-ee'sオリジナルのキャラクターのコップや帽子、Tシャツやその地域のお土産がたくさん売っていました。量り売りのジャーキー、フローズンなどもありました。バーベキューセットも売っており、燻製まで作れるものもあり驚きました。近くには



はたくさんの冷凍庫が置いてあり、開けると氷が大量に袋詰めされていました。建物や駐車場がとても広かったです。広いので見ごたえがありました。



そして、パサデナ訪問の中でも特に楽しみにしていた NASA へ向かいました。途中のマクドナルドがスペース仕様でとてもかわいく、私たちの気持ちは一気に高まりました。NASA に到着すると、入口の前で記念撮影しました。入口の建物の横には宇宙船を運んでいる飛行機の大きな模型が置いてありました。建物の中に入ると、

たくさんの種類の宇宙服や宇宙船内の施設などがいっぱい展示されていて、その空間を収めようとみんながカメラを向けていました。少し暗くなっていたのも雰囲気良かったです。敷地内の施設を見学できるツアーが 2 種類あり、アポロ 11 号が人類初の月面着陸を果たしたときの管制室を見学するツアーに参加しました。無人の管制室に、映像や当時の音声、説明のアナウンスが流れてきて、迫力のあるツアーでした。ボランティアで通訳をしてくれためぐみさんが NASA で働いているため、詳しく話してくれました。お土産も宇宙食など NASA ならではのものがたくさん売っていました。お昼は、NASA 内のフードコートで好きなものを買って食べました。めぐみさんが NASA の近くのマクドナルドではポテトを持っている宇宙飛行士がいると教えてくれました。横を通る時に写真を撮ることができました。

NASA 見学の後は、帰り道にあるショッピングモールへ行きました。自由行動で各自お土産などを買って、その後ホストファミリーと合流しました。私と千優ちゃんはニ科尔家とピザを食べに行きました。ホストファミリーの家に帰った後は、ジーナと 3 人で公園内にあるスケート場へ。滑ることができるか不安でしたが、千優ちゃんと一緒に楽しく滑ることができ、とても充実した一日になりました。

【佐々木・加藤(優)】



《4日目》1月9日（木）

朝、ホストマザーがトンプソン中学校まで送ってくれて、すぐにキャリア&テクニカルハイスクール（C T H S）に見学へ行きました。Steven Fleming 校長が案内役を買って出てくださいました。24ものプログラムに分かれていて、一つひとつの施設がどれも本格的でした。ここでは企業で即戦力となるような人材を育成しています。授業は基礎教養と専門分野があり、生徒たちは自分の好きな分野を深く学ぶため、とても楽しそうでした。たくさんのプログラムの授業風景を見学できて、とても楽しかったです。



その後、テーク小学校を訪問しました。初日のスパークス小学校で見たようなクリスマスの飾り付けは片付いてしまっていたのですが、生徒たちの授業の様子を見ることができました。図書室でプレゼントをもらいました。Tシャツや子供たちが書いてくれた手紙などが入っていて、とても嬉しかったです。体育の授業にも参加させてもら

いました。ローラーの付いた台に座って相手の持っているコップを落とすゲームをしました。意外と難しくて足を使うのに疲れました。パサデナの学校は何もかもが新鮮でわくわくします。

＜キャリア&テクニカルハイスクール（C T H S）＞

2013年設立の同校は、職業訓練高校で、次の六つの専門領域からなっています。

①農業アカデミー②ビジネス&ヒューマンサービスアカデミー③保健サービスアカデミー④製造&建設アカデミー⑤テクノロジー&エンジニアリングアカデミー⑥運送&船舶輸送アカデミー

これらの専門領域の下にさらに ①獣医・フラワーアレンジメント・園芸 ②経営学/会計・保育・美容・料理・医療・刑事裁判 ③看護師・薬剤師・歯科衛生士・救急救命士 ④大工・電気工学・溶接工 ⑤映像制作・グラフィックデザイン・ロボット工学 ⑥自動車修理・船舶関係…など多数のプログラムが用意されています。

午後はトリニティ湾沿いの Maritime Technology & Training Center に行きました。そこは米国沿岸警備隊に承認され、国際的に認められた海事訓練などを職業船員にも提供している場所です。

そこに到着して最初に美味しいランチをいただきました。グラスに盛り付けられたデザートはどれも美味しそうで選ぶのに苦労しました。そのあと私たちは船の操縦のシミュレーションを体験しました。ゲームみたいで楽しく行うことができました。他にも運河を行き交う船を見ることができました。とても大きな船を間近で見ることができて、すごい迫力でした。



その後、TOUR OF HOMES（豪邸めぐり）に行きました。私たちは4軒の家をめぐりました。そこでは地域の方々が訪問団のためにクリスマスのイルミネーションを残してくれたり、たくさんのごちそうを用意してくれていました。私たちはディナーをいただきながらその家を自由に見学することができ、リビングルーム、ベッドルーム、お庭などそれぞれの場所が日本と比べるとものすごく広く、皆驚きを隠せませんでした。特に印象的だったのはプールの中に鯨のペイントがされていたことです。思わず『ドキッ』としてしまいました。

また、一軒一軒を移動する時に馬車に乗りました。普段、車や電車などに乗って移動する私たちにとって馬車に乗るのはとても不思議な感じがしました。

最後の家ではカラオケがあり、現地の方がカントリーソングを歌ってくれました。

その後、大草団長は「Love Me Tender」を披露してくれました。 【柳川・小池田】

＜ホームツアーで私たちを受け入れてくれた家族＞

- 1 Leesa and Johnny Carson さん（Leesa は Jeanie and Johnny Isbell さんの御息女）
- 2 Tracy and Neal McGovern さん（Jodie and Jim Adkins さんの御友人）
- 3 Jeanie and Johnny Isbell さん（Johnny は前パサデナ市長）
- 4 Jodie and Jim Adkins さん（2019年4月来賓）

《5日目》1月10日（金）



この日は、朝食をトンプソン中学校の図書室でいただきました。朝早くから準備してくれていたことに感謝の気持ちが湧きました。朝食の後はプレゼントをもらいました。スクールバッグから各自の名前が入った置き物までたくさんいただきました。

その後お昼までトンプソン中学校を見学し、大人、中学生と高校1年生、高校生2・3年生の三つのグループに分かれて行動しました。

僕たちはドビー高校に行きました。ドビー高校は学年で校舎が分かれていて、僕たちが訪れたのは 9th grade の校舎でした。農学、音楽の授業に参加しました。授業の中で YouTube などを活用していました。また、音楽では基礎を大事にレベルの高い授業をしていました。ランチは、案内をしてくれた子と校長先生と一緒に食べました。午前中を通してスケールの大きさに圧倒されました。

午後5時、サヨナラ・パーティーが始まりました。パーティーにはパサデナ市や友好協会の方からホストファミリーや学校関係の方まで、大勢の人たちが参加しました。ビュッフェスタイルのテキサス料理やケーキでもてなしてくれました。机にはプレゼントが置かれていました。伝統舞踊や楽器演奏などで会場を盛り上げてくれました。



ゲイル会長のお話や忙しい中来てくれたとてもフレンドリーな市長のお話がありました。その後、今回の訪問やホストファミリーへのお礼の言葉を一人ずつ英語でスピーチしました。最初にホストファミリーと会った時よりも緊張が取れていたのか、みんな自信を持って英語でスピーチしていました。フレンドリーでとても賑やかで楽しいパーティーでした。みんな、もっとパサデナに居たい、まだ帰りたくないという別れを惜しみつつ、パサデナでの最後の夜を楽しみました。

【笹元・佐々木】



7 報告会

(1) 日 時

令和2年1月27日（月）午後5時～5時30分

(2) 場 所

秦野市役所本庁舎講堂

(3) 内 容

訪問団員から一人ずつ、想いのこもった報告が行われ、ワグナー市長からいただいた姉妹都市記念日の宣言書が大草団長から高橋市長へ渡されました。

最後に、市長及び秦野パサデナ友好協会会長からお言葉をいただきました。



8 感想文

《 1 》青少年訪問団

秦野パサデナ友好協会

大草 淳一(訪問団長)

これまでの海外旅行とは全く違う立場での訪問に、多少なりとも責任を感じた準備から出発となりました。数回の研修を経てはいるものの、訪問者同士がお互いを知るには時間が短い感は否めませんでした。しかし、それでも素晴らしい友情が生まれた要因は、今回のホームステイであることには間違いありません。それは遠い異国の家庭におかれた者同士の一種の連帯感が大きく作用しているのかも知れません。

私自身、英会話力に自信があるわけではないので、通訳の福島さんには大変お世話になることになりました。様々な場面で、こんな使い方が、こんな言い回しが、聞いて初めて「知っていても使えない英語」を実感することができました。ホストファミリーでお世話になったケビンさん一家には乳幼児もいらっしゃり、奥様も大変な中で宿泊させていただいたことには大変感謝しています。3日間という短い時間ではありましたが、アメリカのご家庭のリアルな部分ものぞかせていただくことができました。この訪問中に知り合いになれた方々とは、これからもメールなどを通して連絡を取っていきたいと思います。



今回の訪問ではパサデナ側のゲイル会長には、トンブソン中学校の職員でホストファミリーを引き受けていただいた方々、多くのボランティアの方々との連絡や調整など、すべての面でのサポートをいただいたことに心から感謝したいです。この訪問を通して体験したすべてのことを今後の友好協会の活動に生かしていくとともに、参加した青少年の皆さんが訪問で経験した貴重な体験を成長の一助とし、両市の友情の懸け橋となってもらいたいと願っています。

私にとって4回目となるパサデナ市訪問は、新たな出会いと姉妹都市との繋がりの大切さを再度実感した貴重な1週間となりました。

アメリカの方々は、ボランティア精神が旺盛で、今回出会った秦恵さん、ミカハスラーさんともに日本人で、日本人の団体がパサデナを訪れることを聞きつけ、通訳として自分が役に立て



ればと来てくれました。会話をしていく中で、ミカハスラーさんがヒューストンでも有名なヴァイオリニストとして活躍されているということを知ったので、「秦野には山田和樹さんという有名な指揮者がいる」とお話をしました。それがきっかけで、ミカさんとは移動の際にも山田和樹さんやミカさんの音楽活動の話で盛り上がりました。私はミカさんの家にお招きにあずかり、恵さんに行って音楽の話題になったとき、なんと恵さんもNASAで宇宙飛行士のプロジェクトの仕事をしながら、アコーディオンオーケストラを持ち音楽活動をしていることが分かりました。お二人とは、年齢も近いということもあり音楽の話で大変盛り上がりました。お二人とも、「山田和樹さんが育った秦野にぜひ行ってみたい。」と言ってくださいました。5月には、メグミさんが日本に来る機会があるので、その時にできれば、秦野に来ていただいて、再会でできればと思っています。

新たな出会いと共に、パサデナの方々が姉妹都市の繋がりをとても大切に思っていることを改めて実感しました。パサデナの方々との会話や行動には、今まで以上に私たちを歓迎してくれていると思えることが多々ありました。この背景にはきっと「ハリケーンで莫大な被害が出た時に秦野からの気持ちを届けたこと」、「昨年パサデナからの訪問を秦野の人たちが心より歓迎したこと」等、今まで以上に秦野の人たちがパサデナの人たちとの友好を大切にしていることを感じてくれたのだと思います。55年以上の年月が、アメリカと日本の距離を近くしてくれていると実感しました。

このような経験ができたことは、私にとっても貴重な財産になりました。これからも、パサデナと秦野の繋がりを深めていけるような活動を秦野市や秦野パサデナ友好協会などを通じて、行っていけたらと思いました。



私は今回の訪問で実際に現地に行き、自分の英語力を試したい、また、日本とは違う文化を知り、触れてみたいと思っていました。しかし、この2つの目標どころか自分が想像もしていなかったほど多くのことを学ぶことができ、吸収することができました。

まず、英語力に関してはまだまだ足りないという事を身に染みて感じました。聞き取れるけれど、自分の言いたいことを上手く言葉に出来ないといった事が多くありました。正直、今回の訪問では単語を並べただけでも意味をくみ取ってくれる事が多々あり、会話の中できれいな文章を作ることが難しかったです。普段の生活から英文を作る習慣をつけていけるように意識していくことが大切だと思いました。

また、日本との文化の違いについては、現地では様々な学校を訪問する機会が多くあり、自分の目でその違いをはっきりと理解する事ができました。中でも私が関心を持ったのは、テーク小学校を訪問した際、カラフルで、バランスのとりにくい椅子や子供が座る位置だけにくぼみがある机があり、子供たちが集中しやすい環境作りがなされていた事です。日本にもテーク小学校のような工夫を取り入れることができれば子供たちの勉強への関心が高まるのではないかと思います。



その他にも、町のいたるところに国旗があることや、道路の道幅がとても広いこと、学校に制服はないけれど私服に関する決まりは意外と厳しいということなど、どれも日本とは真逆で、日本に比べて自由でいいなあと感じる機会が多かったように思います。その一方で、町のスーパーで当たり前のように銃が売られており、治安の面では安心しきれない部分もあることもわかりました。

こんなにもたくさんのことを学ぶことができたのは、今回のパサデナ訪問に携わった方々、保護者の協力があったからです。私はこの経験をさせていただけたことに感謝し、今回学んだ

ことを元に、次のステージに向けて自分のやりたいことをできるように努力していきたいと思います。そして将来は海外で活躍できる職業に就き、いつか自分の力でパサデナの地に戻りたいです。

私は、訪問団員に決まった時、行ったことのない国への憧れと期待でいっぱいでした。一方で、事前研修を重ねる毎に不安も感じるようになっていきました。私の英語力では現地の人と思うように会話ができないのではないかなどと考えていました。

しかし、現地で私が気づいたのは、思っていたよりも自分がパサデナでの生活に馴染んでいたことです。多くの方と交流し、たくさん英語も使いましたが、文化の違いなど気にならないくらい楽しんでいました。これは、現地の人たちが私たちの訪問を温かく迎えてくれたからだと思います。パサデナでの経験が少しでも良いものになるよう、色々考えて、歓迎してもらえてとても嬉しかったです。ホームステイ先ではホストマザーが沢山話しかけてくれて本当の家族の一員のように接してもらい、学校では先生が日本語の音声を使って授業を進めてくれたりなど、パサデナの人々の優しさにたくさん触れることができました。



また、パサデナでは教育にとっても力を入れていて、小学校、中学校共に日本では考



えられないようなユニークで楽しい学校でした。授業でバランスボールの椅子を使っていたり、学校で朝食が出ることなど日本との違いが興味深かったです。パサデナで過ごした時間はあっという間で、毎日が充実していてとても貴重な経験でした。今回の経験を生かしこれからも国際交流に積極的に参加して行きたいと強く思います。

今回パサデナへ行くことが決まった時、嬉しさの半面不安もありました。何が不安だったかというと、それはコミュニケーションできちゃんと人と会話ができないのではないかと少し心配していました。しかし、パサデナで会った人たちは皆フレンドリーで優しく、僕が言葉に詰まった時も理解してくれようとしていてとても嬉しかったです。



国が違くと文化も違うということをよく聞きますが、実際にアメリカに行ってみて文化の違いを肌で感じました。僕が感じた文化の違いは三つあります。

まず一つ目は食です。アメリカで出される料理は日本に比べて野菜が少なく、油っこい、そして量が多いという印象を受けました。大柄な人が多い理由が分かる気がします。

二つ目は挨拶です。人によるかもしれませんが、僕の見たアメリカ人はいろんなタイミングで自然に挨拶をしていました。例えば朝エレベーターで会った時、「Good morning!」と挨拶されました。日本ではこういうことはあまりないように思います。



三つ目は社会への関心です。国際的な政治だけでなく州や地域の中の政策やボランティアにも多くの人に関心を持っていて、ボランティアには学生もたくさん参加しているということを聞きました。

これらのように、アメリカで経験、体験してきたことを周りの人に伝え、今後の自分の人生にも役立てていきたいと考えています。ありがとうございました。

今回の訪問は異国の文化、考え方、生活を知るとても良い機会となりました。

私は初めての海外、初めてのホームステイでした。英語で会話できるか不安でしたが、パサデナ市の方々、ホストファミリーの方々が優しく温かく迎え入れてくれて、楽しい1週間を過ごすことが出来ました。色々な施設に連れて行ってくれました。

小学校に行った時、落ち着いて授業を受けられない子のために自転車のようなペダルがついている机などがあり、落ち着きなさいと子供に注意するのではなく、そのような子でも授業を受けられるような環境を作ってあげるという考え方が素敵だなと思いました。中学校では、授業を体験しました。一人1台パソコンを持って活用していました。案内してくれた子たちと友達になって、今でも連絡を取っています。高校、大学は就職に役立つことを学べる施設があり、将来のことを第1に考えていることがわかりました。日本との違いを知ることができました。これ以外にも連れて行ってもらったところは、どこも印象深いです。



心配していた英語での会話はホストファミリーの方の気遣いで何とか話すことができました。英語だけの世界に行ったことで帰国後、学校の英語の授業を受けたとき ALT の先生のいうことが前より理解できました。これからももっと英語を勉強して自信を持って多くの人と会話できるようになりたいと思いました。

またパサデナに行きたいです！

私は、秦野市の中学生英語スピーチコンテストに参加させていただき、思いがけず優勝しました。しかも、このコンテストには、秦野市はじめ、秦野の各団体の皆様の支援で、アメリカへのホームステイのプレゼントがありました。今まで個人旅行で、日本や他の国を訪れたことはありましたが、このアメリカ滞在は、他のどれよりも充実していて学びの多いもので、連日、わくわく、ドキドキでした。パサデナに到着して、私たちのために、いろいろな行事がしっかり準備されていることに驚きました。



パサデナ市をあげて、多くの人々が歓迎して下さいました。送迎運転や同行、案内のボランティアの方々は、皆明るく優しく接して下さいました。市長さんのお話はユーモアがあり、私を本当にリラックスさせてくれました。お土産もパサデナの名所が入った思い出に残るものばかりでした。

小、中、高、大学、警察署、消防署、NASA、博物館見学など盛り沢山で、中学校では、普段の授業に参加し、理科、社会、音楽などを勉強できました。消防署訪問では、実際に消防車に乗せていただきました。一つひとつ全てが、パサデナの人々の心温まる想いが直接伝わってきて、感激の連続でした。ホームステイは、アメリカの人々の生活を肌で体験できた貴重なものになりました。



短いアメリカの旅でしたが、秦野市の皆様、友好協会の方々をはじめ、多くの人々が、私たちのために支援、応援をしてくださり感謝しています。今回の体験を通して、更に英語を磨き、将来、パサデナの人々が日本に来られる時は、私もボランティアの一員となれるよう努力していきます。ありがとうございました。

秦野市立北中学校

小池田 冬乃

今回秦野市の代表でアメリカ、テキサス州のパサデナ市を訪問し、たくさんの経験をすることができたことをとても光栄に思います。

今回の訪問ではサンジャシント記念塔、NASA、警察署、消防署、そして市役所などを見学して昔からの歴史や活動状況などを学び、市内の小学校から大学までたくさんの学校を訪れ、施設や実際の授業を見学しました。その中でも特に気になったのは小学校と中学校です。そこで印象に残ったのは、日本でいう黒板とテレビが合体したプロジェクタースクリーンが各クラスに設置してあったり、生徒一人一人がラップトップ式のパソコンを用いて授業を受けていたり、バランスボールに座りながら授業を受けていたことです。日本もこんな学校だったらいいのになぁと思いました。



実際に受けたトンプソン中学校の授業は、最初は緊張しましたが、生徒がとてもフレンドリーでわからないところはノートを見せてもらい、体育の時間は自由時間でいろんな人と会話をすることができました。「君の英語理解できる!」と言われた時は嬉しかったです。せっかく仲良くなれたのに1日でさよならをするのは寂しい気持ちでした。

ホームステイの方はとても優しく接してくれました。いろんな場所へ連れて行ってくれたり、美味しい料理をたくさんごちそうしてくれました。家でも、細かいことまで優しく声をかけてくれました。「初めて会う私たちに、こんなにも良くしてくれるなんて、、、」と、とても感動しました。私もこれからはホストファミリーの方々みたいに誰に対しても優しく接しようと思いました。



私は今回の訪問でたくさんの経験をすることができました。楽しく過ごすことができたのは、お世話になった多くの方々のおかげです。特に秦野市役所の方や秦野パサデナ協会の方々、ホストファミリーの方々、そして派遣団のみなさんには感謝しきれないです。ありがとうございました。

《 2 》教職員派遣視察団

秦野市立大根小学校

教諭 加藤 敦視

始めて訪れる地域だったために刺激的な 1 週間でした。印象に残っていることが三つあります。一つ目は、学校の設備と仕組みです。日本とは根本的に違い、のびのびと学習している様子が伝わってきました。二つ目は、ボランティア制度です。本業とは別にボランティアをしている精神が素晴らしいと感じました。規模が違うのでボランティアと初めはわかりませんでした。三つ目は、おもてなしです。どの施設でも手厚いおもてなしを受けました。ホストファミリーをはじめ、市役所や学校、NASA など親切にしてくれたので楽しく過ごすことができました。



私はパサデナを訪問するに当たって、様々なものに触れ、体験し自分の価値観や視野を広げたいと考えていました。日本での常識が通じないことや文化の違いなど様々な発見があったことによって考えの幅を広げることができました。しかし、英語でのコミュニケーションが十分にとれるわけではなかったため、現地の人との会話を続けることができませんでした。自分から意見を伝える事、知識をもっとつける事、自分の力のなさを痛感しました。



今後のさらなる目標としては、まずは自分自身の英語の能力向上です。コミュニケーションをさらにとれるようになれば積極的にアクションを起こすことができます。次に学んだことを秦野市に還元していきたいと思います。学校現場で教員に向けてはもちろんのこと、子どもたちにも国際交流の大切さと関連させながら伝えていきたいです。

最後にパサデナとの交流をこれからも深く続けられるように自分にできることに取り組んでいきたいと思います。



令和元（2019）年度
姉妹都市パサデナ市派遣
秦野市青少年訪問団・教職員海外派遣研修訪問団
訪問の記録

編集・発行 秦野パサデナ友好協会事務局(秦野市文化振興課内)